

平成28年度 第1回 総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成28年7月4日(月) 午前10:00～12:00

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 清水岩夫
委員 田中妙子
委員 樋口一男
委員 西條三香

4 出席した事務局職員

教育部長 栗岩康彦
子ども育成課長 荻原賢二
学校教育係長 丸山真央
学校教育係 宮沢麻由

5 会議の経過及び発言

1 開 会

(荻原課長)

平成28年度第1回の総合教育会議を始めます。

総合教育会議は公開となっておりますので、Iネット入りますが、よろしくお願ひします。

2 あいさつ

(足立市長)

みなさん、おはようございます。梅雨の時期に入り、今日は若干、梅雨らしい天気になっていま
す。本日は平成28年度最初の総合教育会議ということで、昨年度は教育大綱の策定を頂いたと
ころですが、総合学力調査の関係では6月議会定例会にて議決をいただき、それに従って進めて
いるところであります。実際に進めているなかでも、それぞれまたご意見を頂けたらと思ひます。

3 会議の進め方について

1) 議題

①総合学力調査について ②「家庭学習のすすめ」家庭配布資料について
③仮称「飯山市子ども館」について ④その他事項について

2) 会議の進め方

上記議題について、市長を司会進行に、資料については事務局から説明。

4 総合学力調査について

(長瀬教育長)

それでは私の方で。総合学力調査、今年度初めて予算をつけていただいて年2回行うわけです。ベネッセを活用。一年間通じた学力の推移をみることができる。今後5年計画で行っていくのでかなりの長期にわたり一人一人の学力の推移について、ある程度しっかりとした実証ができる。ただ試験を4月に行ったところで、結果がつい先日来たところですので、まだ詳細な分析がなされていない。私の方で生活状況について概況をみましたが、たとえば小学生は平日ですと30分以下しか勉強していない生徒が約4割。

30分だと宿題だけで自分の勉強はほとんど無いのではないかと。これが休日になりますと約5割の小学生は30分以下。3時間以上学習する小学生がどのくらいいるかという平日は5%です。ですから本当に数えるほどしかいないということなんですが。

中学校は、ざっと見たところ30分以下の中学生が平日は14%。

中学生で30分以下ということは、ほとんどやっていないというのに等しいわけです。

これが休日になりますと、約2割の生徒は30分以下と。

ですから今回も総合学力調査の学習状況調査を見ますと、飯山市の小中学生は家での家庭学習が非常に少ないのではないかと。

教育大綱で、みなさんご存じのとおり教育大綱はとにかく家庭学習の確立を図ろうではないかと、そういう大きな目標を掲げております。

教育大綱の一番大きな狙いは、飯山市内に住んでいる小中学生の子供に、力をつけて、とにかく、将来、いろんなところへ出ていくときに同じスタートラインにたてるようにしようじゃないかという、非常に大きな目標でやっております。

その中の一つとして、家庭学習を大きな課題として取り上げました。

国でやっている学習状況調査でも、ある程度データは出ておるんですが、今回の私がざっと見ただけでも学習時間が非常に少ないというのが一つでございます。

それでは、もう一つだけ生活状況をうかがい知ることができるデータとしまして、平日3時間以上テレビを見ている6年生がいったいどのくらいいるかと言いますと、約36%です。ということは、平日で3時間以上ということは、ご飯食べた後、ほとんど勉強せず寝るまでテレビを見ると予測がつかます。

それから休日は、これが6年生になりますと、約52%です。

これをもう少し時間を下げて、休日、2時間以上テレビを見ている小学生がどのくらいいるかという、約6割です。

ですからかなりの生徒がテレビを見ている時間が多いというのが、うかがうことができます。

中学生をみてみますと、平日3時間以上テレビをみている中学1年生、約30%。

それから中学3年生になりますと、やや減りまして約14%ですね。

休日になりますと、中学1年生は1日3時間以上というのは、約6割。

ですから、非常に見ているということですね。

これをもう少し時間を下げて2時間以上としますと中1の場合で、平日で約6割です。

これは、ゲームの時間を入れていないので、テレビとゲームの時間を合わせると、飯山市内の小学生、中学生は非常に家庭での学習時間は習慣として成り立っていないのではないかという、本当に私が簡単に見たデータだけです。

あと総合学力調査では、かなりの大きな項目にわたって調査しておりますので、また7月20日過ぎにベネッセがきまして、飯山市内の小中の先生方にデータの見方や活用等の仕方について細かい説明もありますので、そこでまた各学校の先生方が一人一人の生徒について、きめ細かい指導に入ってください予定になっています。

総合学力調査についての概況は以上でございます。

学力そのものについては、まだしっかりと分析がなされていませんが、やや厳しい状況だな、というように私自身理解しております。中学生の方は、まあそれなりに頑張っているな、という全体としての感じであります。

以上、総合学力調査については、現在の概況ですので、また細かい分析結果ができましたら、この席で、しっかり報告をしたいと思っております。以上です。

(足立市長)

この関係で何か、ご意見はありますか。よろしいですか。

(清水職務代理)

今、説明いただいたことについて、今までは何時間というような細かい分析がなくて、大方の傾向として捉えていた。

ただ、子供たちが自分の将来像を、しっかり描けていない、目標がしっかり持てないというか、とりあえず、スポーツを例に、たとえば、「明日大会があるから何とか勝たなきゃいけない」と、目先のことに追われてしまって、自分の将来について考える、今に始まったことではなくて、ずっと前からですけれども、そういうところにも、もう少し入っていけるといいかなあ、と。

どうしても、できた・できない、上がった・下がったで、そういう点では、これからの家庭学習の積み上げてこともありますし、家庭学習だけではなくて、学校の授業というの。

(田中委員)

子どもたちの課題は、テレビとかゲームに圧倒的に生活時間が割かれているという実態が非常に大きな問題だと思うんですね。それぞれの家庭が、いかに飯山の子供がテレビ漬け・ゲーム漬けになっているかっていう実態を、具体的に数字で理解はしていないんじゃないかと思います。

それに対して今回、非常に具体的なものを提示しようということで、非常に大事なことだな、と。家族みんなが共通で理解しないと。親だけでなく、家族みんなの共通理解をしないと、子どもは勉強しなきゃいけない、勉強に切替えさせなきゃいけない。けど、年寄りもしっかりテレビつけていたんじゃ、なかなかうまくいかないじゃないかと。

そういう意味で、また後程、詳しくお聞きしたいと思いますが、それに対してテレビ、ゲームを具体的にどこまで掘り下げて提示していくか。以上です。

5 「家庭学習のすすめ」家庭配布資料について

(足立市長)

よろしいですか。

それでは次の「家庭学習のすすめ」の学校配布資料につきまして、事務局から説明をお願いします。

(荻原課長)

みなさまのところに家庭学習のすすめの冊子と、A3のもの2枚を、お配りしてございます。

まず、先ほど教育長から話がありましたけれども、飯山市では家庭での学習習慣の確立が課題だということで「家庭学習のすすめ」を家庭に配布していきたいと考えています。

ステップ1として生活習慣の確立、ステップ2として学習環境づくり、そしてステップ3として授業と連動した学習ということで考えています。

1枚返していただいたところに、ステップ1といたしまして、生活習慣の確立ということです。

これまでは「早寝・早起き・朝ごはん」と提唱してきたわけですが、そこから一步すすめて、生活習慣の確立という部分の中で、先ほど田中委員からもありましたが、規則正しい生活リズム。テレビ・メディアのコントロールをしっかりとやろうという部分で、時間、スケジュールをしっかりと組むという部分。それと場所ですね。環境ですね。家族のいる場所で使用、行うこと。そして使い方。家庭で話し合い、ルールをしっかりと決める、ルール化する。

特にゲーム、スマホの使用、マナーやモラルについては、しっかりと、家族で話し合いながら使い方について確立をしようということでございます。

次の2ページ目になりますが、学習環境づくりという部分で、家庭学習は環境づくりが大切ということ。

家庭学習の習慣化については学習しやすい雰囲気、それと、家族、保護者がしっかり関わるということが大切だという部分であります。

ひとつには家庭学習のルールを家族みんなで決めて行う。

そして学習場所の整備。学習しやすいような整理整頓をこころがける。

それと家庭学習の優先順位。まずは宿題を、そのあと自主学習。授業の復習予習、そしてテーマを持ち自主学習をすすめる。家庭学習の優先順位を確立しながら、取り組んでもらおう、そのことに心がけようということです。

次1枚かえしていただいたところで、それでは、家庭学習はどのような形で行うのがよいかというところで、授業と連動した学習、ということでは心がけようということです。

まず、学校から出された宿題をしっかりとやる。

次に授業の復習・予習を行うなど授業に取り組む力をしっかりとつけるということ。そして自主学習として、それを習慣化して自分でテーマを決めた中で自主学習を進めるということです。

そして学習時間の目安という部分を載せています。

小学校については学年×10分以上を目安。

中学生は二時間以上ということを目安に、しっかり家庭学習に取り組んでもらうということになります。

4頁については、それを子どものライフスタイルという部分での考えです。

これまで ステップ1、ステップ2、ステップ3を1枚のペーパーにまとめたものです。

各自、自分の生活プラン表、スケジュールをしっかりとて、この時間は運動、この時間は勉強、と、ライフスタイルをしっかりと決めて規則正しい生活を心がけるということでございます。

それを大きくしたものにつきましては、こちらのA3のもので用意してございます。

小学生向け、中学生向けと用意させていただいて、これを自分の勉強部屋等に貼ってもらい、しっかりスケジュールを立てる中で、家庭学習に取り組んでもらうということを、家族と一緒に話し合いながら決めていただきたいというのが、提案です。

(長瀬教育長)

スケジュール的には、今まで校長会と教育委員会でこれについては検討重ねまして、校長会からも十分理解いただいているものでございます。この印刷等につきましては2学期始めにお子さんが学校へ持って行って、十分指導について検討して。モデル的なものは、たとえば中学生は時間が入っていますが、部活等もありますので、それぞれ個人、実情に応じて自分で計画していただく。そして2学期、夏休み明けの生活が少し生活が乱れているかなというその時期に、もう一度しっかり「2学期、勉強をしっかりとやる」と、前提のもとにこれを各家庭に配って周知徹底を図っていきたいと思っています。

もちろん、今年やったからこれでやりっぱなしということではなく、3月の段階で、もう一度学校のまとめ、家庭でのまとめを行い、新年度、改訂するところは改訂し、新年度の4月には子どものライフスタイルの新しいものを配って、各学年が進んだところで、新しいものを配る、そういうスケジュールでやっていきたいと思っています。

今まで飯山市の「早寝早起き朝ごはん」というフレーズで、教育委員会は現場の先生に投げかけていますが、今回は、一步、教育大綱に則って、踏み込んで、保護者の皆様にご理解とご支援をお願いしたいと思っておりますので、よろしく理解をお願いしたいと思います。

(足立市長)

「家庭学習のすすめ」と「子供のライフスタイル」を、生徒を通じて各家庭に配って、個別に作成したものを学校の先生がみるということですか。

(長瀬教育長)

作ったものを先生がみて、これでよいとなれば、家庭で貼ってもらって。

(田中委員)

先ほども申し上げましたが、テレビの問題。

平日で3時間以上あるいは4時間以上見る子が多いという実態のなかで、

テレビについても具体的な数値をだしたほうが良いんじゃないかと思います。ほかのものは数字がでている。一番の問題が抜けている。具体的にテレビを見る時間は1日に何時間とするのか、メディア含めて何時間とするのか、そこはどちらでもいいのですが、テレビというものに対して、具体的な数値を入れたほうが良いのではないかと思います。

(足立市長)

ほかに何か委員さんからご意見あれば。樋口委員さん、どうですか。

(樋口委員)

資料自体は非常にいいことだなと思います。問題は、どうして、こうゆうことをしなければいけないのかということ、家庭も子供たちも理解できるかどうかということが一番の問題で。もう少し突っ込んで言ってしまうと、こんなことしないといけないこと自体が、恥ずかしいと。これを作ることは、非常にいいことだと思うのですが、本当にこのとおりでできればいいのですが、この通りしなきゃいけないのかということが、親も理解できていて、小学校低学年はなかなか理解できないかもしれないけど、ある程度、中学校くらいになると理解できていないといけないのではないかと思います。

私も学生を持つ親なので、親の立場からすると、自分の子供が、今、置かれている状況が、どうゆう状況か、わからない。勉強ができているのであれば、別にゲームをしても、それは構わないのかもしれませんが、現状がどうだってことがわからない、把握できていない親がほとんどだと思います。

こういった全国学力テストなどの調査については、全部オープンにするわけにはいかないと思いますが、子ども個々に関しては、きちっと現状どうなのかというのを親に教えていただく。親もそれをきっちり理解する。そこがないと家庭教育というのは、そもそも成り立っていかないのではないかと思います。

そう考えると、今、現状どうだっていうのが、私は、よくわからないのですが、子どもが実際どうゆう状況におかれているかが分かりづらいので、親もそのままになってしまう。

ですから、学力も含めて、今の現状は非常に大変な状況だということ、現状では自分の子どもが進むべきところへすすめなくなるかもしれません、という意識が親に出てくると、親も一生懸命子どもに関わるようになるし、子どもも、たぶんわかってくると思います。小学校低学年はある程度強制的に勉強しなさいよ、ってことを親が言ってあげないといけないかもしれないですが、ある程度のところになると子どもも、きちっと理解してくると思うんですね、私は。

そういった意味で、どうしてこういったことをしなくてはいけないのか、の理解が進むように、進むにはどうしたらよいかってところも、合わせてやらないと、ただ作りました、できませんでした、だけで終わってしまうと、非常に悲しいのではないかと思います。

最後に、私は、進路選択というのは、すごく早いほうがいいのではないかと、つくづく思っています。

今、複雑な世の中になっているので、自分がどの道に進むのか、途中で考え方、進むべき方向、

変わってもいいと思うんですが、何になりたい、何をしたいという進路選択を早く出すべきだし、だしてあげたほうがいいと思う。

そのためには、親がある程度、昔、関わっていなかったということではなく、昔よりも子どもの教育に関わっていないと、ほっといても子供が自分でやるという世の中ではないので、そういう意味でも、親御さんには現状をきちっと理解していただいて、今の現状がこうなので、こうしないと困りますよっていうところの理解が進めばいいんじゃないかなあ、と思っています。以上です。

(長瀬教育長)

樋口さんから大事な質問が出ましたが、個人個人がどうなっているかというのは、今回個人票でしっかりデータがでてきますので、学級担任の先生方から、とにかく保護者へ個人票をお渡しして、一人一人の現状が生活面も含めて子どもの答えた回答を基にして個人データがでてきますので、親御さんに見てもらって、それで親御さんが自分の子供の現状がどうなっているのかってところを正しく理解してもらおうのが、今回の総合学習調査の大きな狙いでもあります。

それは、各学校で見方等がしっかり決まって、分析もわかって、担任の先生も、自分のクラス生徒一人一人、しっかり確認していますので、その段階でしっかり渡して説明するという手順です。樋口先生がおっしゃったことについては、間違いなく、小学2～5年生は初めて自分の力を、データの的に親は確認できることになる。

たぶん、学校のクラスでやっている復習テストとかは見ていると思いますが、全国レベルでのある程度のデータは、どこかで一回は親に知っていただく必要があるんじゃないかと思っています。

(足立市長)

客観的にみれるということを知ってもらうという。

(長瀬教育長)

自分の子供が、今、どうなのかを客観的に知ってもらうということです。

(足立市長)

今は？

(長瀬教育長)

今は学校で分析しています。

(足立市長)

以前は？全体の結果を渡していたの？個々に結果を渡していたの？

(長瀬教育長)

ある程度の説明は、簡単にしていたようですけども。

(足立市長)

進路は、一直線で進めばよいけれども。昔は、ある程度、学校を卒業すれば、たとえば高校を卒業すれば高校を卒業したなりの進む先が決まってきた、受け皿があって、そこに収まれば一生、ある程度方向が決まっていたけど、今は学校を卒業して就職の採用試験を受けるまでわからないというか。景気が悪いと正社員になれないとか。日本の景気そのものをどうこうという難しい話だけれど高校3年生の後半になってさあどうしようってことではなく、できるだけ早く自分自身への意識を親も一緒になって考えていかないと、ある面では昔よりも厳しいかもしれないと感じますよね。

(西條委員)

テレビの時間とかを決めたとして、子どもに「何で？」と聞かれても、親としてうまく説明できない。それには現状がわかって、本人に将来なりたいもの持てれば、今、こうしなきゃいけないというのが理解できていいと思う。

(足立市長)

テレビの時間を、決めたらどうかということだけれども、どうですか

(長瀬教育長)

ここである程度決めるのではなく、校長会もありますので。

(清水職務代理)

何が何でも、そうしなくてはいけないということではなく、ひとつの方向性を示すということで、ライフスタイルに、保護者が関わり方について、1・2年生はこう、3・4年生はこう…と書かれています。

ただ、実は、これが出されて、さっき樋口委員の意見にもあったけど、子どもの生活に親がどれだけ関われるかどうか。毎日の生活の中で。たとえば1・2年生は「困っているときは一緒に聞きましょう」ではなく、「できたときは褒めましょう」ではなく、親がしっかりと確認しましょうと、親がそこまで入り込んでもいいかな、と思います。3・4年生も「状況把握しましょう」ではなく。もっと入り込んでもいいかなと思います。

それからもうひとつ、ライフスタイルの具体例が子どもの実態と本当にあっているのかと。

小学生はこれでもいいかな、と思うが、中学生が5時に家に帰っている子がどれだけいるか、と。部活もあるし。

(長瀬教育長)

校長会でも、これは目安だと説明しています。

(清水職務代理)

具体例って、目安だとわかってはいるんですが。自分で書けばいいと。ただこの具体例どうかな、と気になりました。

(長瀬教育長)

清水委員から話がありましたが、最初なので、どこまで保護者に求めていいのかという意見もありまして、最初なのである程度柔らかい感じで、保護者の意見も聞いて改訂していけたらよいかということでこのような形になっています。

(清水職務代理)

望ましい形ですね、こうゆうライフスタイルにきなさいということではなく。私はもう少ししっかり載せてもいいかなという気がしています。

(田中委員)

テレビの時間ですが。学年別に低学年はこのくらい。中学生はこれくらい、とそんなところから載せる必要はなくて。あくまでもこれは提示されていて、各家庭の実態で、このとおりにできないかもしれない、でも、あくまでもこれを目標にしていこうねっていう方向で提示していくものだと思う。そういう意味では飯山市にとって一番問題になっているテレビの時間が提示されてなくていいのかな、っていう。せめて2時間とか目標数値があっても問題ではないと思いますが。本当にそれぞれの家庭がどのくらいまでの時間がOKなのかな、って思いますが。

(足立市長)

これは、飯山市のサービスで20～30チャンネルくらい番組があって、アニメなんかは朝から晩まで流れている。あとは大人も見ってしまう。子どもに言うておいて大人の自分は見ているっていう部分ありませんか。

(樋口委員)

テレビを見る時間は、いくらでも減らせる。私の家では録画して日曜の空いている時間に何時間と決めて見るようにしている。CMは飛ばすことで時間短縮できる。必要な時に録って時間がある時に見る。親がそうやって教えてあげることも必要なんじゃないかと。親も一緒になって見ていると、子どももそうなっちゃうので。

(教育長)

田中先生が、具体的に時間を決めたほうが、ほとんどの家庭で一つのきっかけになるということで、それもあると思いますので、ただ1時間か2時間どれがいいかというのは難しいので、現場の校長先生の意見を聞いて、そこで具体的に決めたいと思いますが、市長、どうでしょうか。現場の先生は、私ら以上によく知っているのです。市としては大まかな数字を出したいとは思いますが、それで、一応、よろしいですか。

(足立市長)

それでは、そうゆうことで、校長会の中で話していただいて。よろしいですか。

(足立市長)

それで、小学校6年生の学習時間が学年×10分でいいのかな、とは思いますが、宿題やって復習すると…、4年生くらいまではいいと思うけれども、5年生6年生は家庭学習を習慣づ

けるということが必要じゃないかと。中学生になったら、よっぽど家庭で勉強しないといけないと思うんだけど、その習慣を5年生6年生でつけないと、と思うんだけど。4年生までとは違うんだよ言う。どうなんだろうか。

(教育長)

それでは、田中先生、樋口委員さんからもご意見でしたので、ライフスタイルのテレビは時間を決めてみるようにしましょうの後ろに1日何時間ぐらい、という目安として、具体的な数字をいれることということで。

(田中委員)

テレビとスマホ・ゲームを含めて、と記載すれば、ある程度、子どもの選択肢ができるのではないかと思います。

(教育長)

メディアのところへテレビ・スマホ・パソコンと含むとしますか。それでよろしければ、校長会へそれで図りたいと思います。よろしいですか。

(足立市長)

はい、それでは、それでよろしいですかね、はい。

6 仮称)「飯山市子ども館」について

(荻原課長)

それでは飯山市子ども館について。飯山市子ども館につきまして、検討会を5月27日に第1回目を開催させていただきました。6月27日に先進地等の現地視察を行ったところです。

この子ども館については、皆様お手元の資料に1枚のイメージの部分のをせてありますけども、現在の上町児童センター、城山児童館につきましては、非常に老朽化しているということで、その二つの統合というのがひとつの目安となっております。

そして統合だけでなく、子育て支援にかかわる総合的な施設ということで、児童だけでなく、乳幼児と保護者の方々も、そこを利用して、現在しろやまに隣接しております子育て支援センター機能について、そのなかに入れて、子育て支援の総合的な施設として整備していったらどうか、ということで提案させていただいております。

機能面等、建設検討委員会のなかで、研究・検討していただき、8月頃には規模、機能等を決めていきたいと思っております。それとあわせて、子育てに関する相談機能という部分も、ぜひその中で保護者から相談を受けられるような体制等も整えていきたい、また子育てサークルの皆さんの情報発信の場としても使えればという部分も踏まえて、現在検討してございます。以上であります。

(足立市長)

質問等ございますか。

(長瀬教育長)

一応、市の補助を出すということは、別の言い方をしますと、働くお母さんたちが、安心して仕事をして子供を預けられるという、それを市がフォローするという、こういう形で進んでいるということだけは、ご理解いただきたい。いずれにしましても、働く、子育ての一番大変な時期のお母さんたちをバックアップしたいと、そんな大きな目標で進めております。

検討委員会をつくってやっておりますので、そういう現状もご理解いただきたいと。その都度、報告していきたいと思っておりますので。

(田中委員)

場所は、もう決まっているんですか。

(荻原課長)

まだ、これからです。検討会議は、毎月1回開催しますので、5月6月、7月開催をし、8月には、方向性は出していきたいと思っています。

7 その他事項

(足立市長)

それでは議題4のその他1ということで教育懇談会について

(丸山係長)

それでは私の方から平成28年度教育懇談会開催(案)について、説明したいと思います。

平成25年度に同様の教育懇談会ということで、各小学校区単位で行っており、そのときの目的等を参考にしながら予定しています。

目的として「次世代を担う子供の育成について、教育委員会と地域の皆さんと一緒に考える」ということであります。期日であります。今年度ご承知のとおり城南中と給食センターの移転、あるいは10月には全県の教育委員さんの大会等を予定しておりますので、それらが終わった11月頃からということで計画をしております。

内容の後半ですけれども、先ほど来、話がでておりますが飯山市教育大綱、それから家庭学習のすすめ等、それから児童数の推移等の資料を基に地域の皆さんとの懇談ができればいいのかなと思っています。

なおまた、平成25年度開催したときもそうですが、各地区、小学校区によって課題が様々ですので、大きな問題を提起して各地域の皆さんからの要望課題等話し合いができればと思っております。簡単ですが以上です。

(長瀬教育長)

これについては、教育委員会、教育委員さん、細かに相談しながら進めていきたいと思っています。

(足立市長)

よろしいですか。

はい、それでは次「出産・育児をしやすい飯山市にするための事業提案」募集について

(丸山係長)

「出産・育児をしやすい飯山市にするための事業提案」募集についてですが、こちらにつきましても市報等でお知らせしておりますが、ふるさと納税の1億円を基金として積み立てております。それを活用しての事業提案を7月15日までにとということでPRしてございます。担当の企画財政課からは、少しずつ提案が届いていると聞いておりますが、市民の皆さんの意見を聞きながらということですので、お願いいたします。まだ、これもとりまとめ中ということです。

(足立市長)

これは、子ども子育て出産育児少子化対策のためのアイデアを出してもらいたいということでございます。アイデア出してくれと言っても、それに係る費用はどうするのという話もございまして、単年度ではなく子ども子育て基金として1億積んでおりますので、基金の有効活用をということで市民のみなさん方からも何かアイデアがあればということでございます。少子化対策、子育て全体的なことやっていきたい。教育分野とすればこういうものがあるのではないかとという提案がありましたら、出していただきたいと思います。

それでは次、深圳市福田区僑香外国語学校について。

(丸山係長)

福田区との友好交流事業について、企画財政課の資料でございます。深圳市の福田区と飯山市は観光を含めた観光友好交流等を行っています。今年の4月にはゲートボールのみなさんが飯山市を訪れておりますけれども、今回初めて小学生、僑香外国語学校、小中一貫校だと思っておりますが、小学生が初めて飯山市を訪れるという予定になっております。内訳にありますけれども、生徒16名と、その保護者16名ということで、小学校2年生3年生、5年生6年生ですけれども。飯山小学校の3年生1～3組と6年1組に交流ということで7月13日に学校交流を行うという予定であります。

14日につきましては3年生クラスとの交流体験予定ですが、福田区で初めてということで教育委員さんにおかれましては、1日目、7月の12日の夜、斑尾高原ホテルで市主催の歓迎会がありますので、会費制にはなりますが、こちらへの出席をお願いしたいと思います。

(足立市長)

深圳市の深圳外国語学校とは、4月に交流15周年記念を行いました。飯山市では深圳市の中の福田区とも友好交流協定を4年位前に行っています。今回は福田区立の学校ということです。福田区立の人口は120万人。シンセン市中枢の市政府があったり、一番の金融センターがあるような中心地区です。

東京で言うと、千代田区と中央区を一緒にしたような、行政と経済を一緒にしたようなところがあります。ゲートボールの交流は去年11月に行っており、この前の4月の菜の花ゲートボールには向こうからチームで来ていただいております。

以前、福田区へ行ったときに、小学校のクラス交流をお願いしたいということで言われておまして。福田区は小学校だけで3000人ほどいるのですが、ただ、小学生ですから日本語はできま

せんので、小学生同士の交流は難しいのかな、と。

それで、昨年4月に向こうの先生が飯山市にお越しになったときは、飯山小学校にお願いして玄関でお迎えしてもらって。その際に、もう少し児童同士が、飯山の自然体験を兼ねた中での交流はどうか、ということで、小学生と保護者が一緒に来てくれるということになりました。

観光だけでなく、小学生との交流も大事なことでやっていこうと来週に行います。

深圳市はやろうとすると早いので、こちらはついていくのが大変です。深圳市は夜も気温が高い地域で、飯山市は涼しいので、斑尾高原ホテルに泊まっていて、学校交流ができればと考えております。

(足立市長)

それでは、次の事項を。議題は以上でよろしいでしょうか。

では、次回の開催は。

(丸山係長)

今回は、教育懇談会、7地区予定していますが、1～2地区終了した11月頃を予定したいと思いますが、いかがでしょうか。

閉 会

事務局より、次回開催は11月頃の確認をし、閉会とした。